

## 骨髄バンク推進月間に寄せて

中頭病院 血液腫瘍内科 山入端 敦



毎年10月は「骨髄バンク推進月間」と定められています。

急性白血病などの血液悪性疾患、再生不良性貧血などの造血不全に対して骨髄移植や末梢血幹細胞移植は最後の砦となりうる有効な治療法で、疾患の治癒も目指せる時代となりました。近年、病態生理の詳細な解明や免疫療法など新たな治療の出現などにより移植適応疾患は減ってきていますが、「移植でしか治せない疾患」が未だ数多くあるのも事実です。

移植を行うためにはHLAという白血球の血液型が一致もしくは類似しているドナーが必要になります。HLAは兄弟間であれば1/4の確率で一致しますが、ドナー候補の兄弟が高齢であったり健康上の問題があるとドナーにはなれません。核家族化が進んでいる現代において、兄弟間でドナーを見つける事は簡単ではなくなっています。

移植を必要としている患者さんは毎年約2,000人ほどいると想定されていますが、血縁者以外でHLAが一致する確率は数百～数万分の1程度とされており、1人でも多くの患者さんを救うためにはより多くの方に骨髄バンクでドナー登録をしていただく事が重要になります。実際に2024年度は骨髄バンクに登録した新規登録患者数は1,869人だったのに対し、実際に移植が行われたのは1,021人でした。約2人に1人しか移植が出来ていないという事を考えると、やはり今後もドナー登録数を増やしていくのは重要な課題と言えます。

骨髄バンクは1991年に設立され、1993年に1例目のバンクドナーからの骨髄移植が行われました。NMDP（全米骨髄バンク）など

海外の組織とも協力しつつ、外国人のドナーからの移植や外国人へのドナー提供も行われてきています。

骨髄採取は全身麻酔下で行う事（手術に対する怖さ）やその実施までに自己血を貯める必要があり通院の負担が大きい点など、血液内科医から見てもハードルが高めだなと感じる事があるのは事実です（しかも患者さんとは直接関係がないボランティアドナーなので尚更かと思います）。海外ではG-CSF投与を必要とするものの、全身麻酔や自己血貯血も不要な末梢血幹細胞採取が主流となっていますが、日本の骨髄バンクでも2011年3月に末梢血幹細胞採取をしたドナーからの末梢血幹細胞移植が初めて行われました。移植のやり方も大分進歩した事で、近年は骨髄移植と末梢血幹細胞移植での治療成績の差は殆どないと言っていい状況であり、骨髄バンクに登録した方の末梢血幹細胞採取が増えてきております。2024年度は骨髄バンクに登録していただいたドナーの採取総数は1026例でしたが、骨髄採取683例（前年比-90）、末梢血幹細胞採取343例（前年比+24）でした。ドナーさんの選択肢が増える事でより協力しやすい環境になってきているのではないかと感じています。

ドナー登録の条件として、「18歳から54歳までで健康状態に問題ない事」がありますが、近年若年者の登録者数の増加が緩徐でドナーの高齢化が問題となっています。一方で医療現場では若年者の方が採取できる細胞数が多かったり、移植成績に有利に働いたりする例も報告されているため若年者の需要は高まっている状況です。骨髄バンクでは若年者のドナー

登録を推進するためテレビCMに加えてSNSでの情報発信を積極的に行っております。またドナー登録者が仕事のため骨髄・末梢血幹細胞の提供をできない事も多いとされ、「骨髄バンクドナー休暇制度」の導入も推進し、2025年7月末時点で導入企業・団体は906社とされています。ドナーのための助成制度も全国の自治体・民間団体で導入され、沖縄県では令和2年から市町村がドナー助成を行う場合にその経費の一部を補助する「沖縄県骨髄バンクドナー助成事業補助金」が造られています。また日本ではバンク登録を行う際に献血会場に

行ってHLA検査のための採血が必要なのですが、海外では口腔粘膜をスワブで拭い、それをポストに投函して登録という流れが主流です。日本でも2026年以降の導入に向けて準備が進められている状況です。

骨髄バンク推進月間にあたり、医療者の皆さんには造血幹細胞移植や骨髄バンク事業に関する知識を深めていただき、それを地域や患者さんに啓蒙していただく事でバンク登録者が増加し、1人でも多くの移植適応の患者さんに適切なドナーが見つかる事を期待したいと思います。



## お知らせ

### 文書映像データ管理システムについて（ご案内）

さて、沖縄県医師会では、会員へ各種通知、事業案内、講演会映像等の配信を行う「文書映像データ管理システム」事業を平成23年4月から開始しております。

また、各種通知等につきましては、希望する会員へ郵送等に併せてメール配信を行っております。

なお、「文書映像データ管理システム」（下記URL参照）をご利用いただくにはアカウントとパスワードが必要となっており、また、メール配信を希望する場合は、当システムからお申し込みいただくことにしております。

アカウント・パスワードのご照会並びにご不明な点につきましては、沖縄県医師会事務局（TEL098-888-0087 担当：宮良・國吉）までお電話いただくか、氏名、医療機関名を明記の上omajimusyo@okinawa.med.or.jpまでお問い合わせ下さいますようお願い申し上げます。

#### ○「文書映像データ管理システム」

URL：<https://www.documents.okinawa.med.or.jp/Dshare/header.do?action=login>

※ 当システムは、沖縄県医師会ホームページからもアクセスいただけます。

